

## [概要]

本研究では、富山市のコミュニティサイクル『シクロシティ富山』を事例に、富山市の職業別従事者数と年間トリップ数の関連を明らかにし、現在の利用状況を推定することを目的とした。調査に際し、以前に行われた社会実験の結果から、「05 桜橋通り」、「06 富山市役所」、「07 北新町一丁目」、「08 本町」など9つのステーションが通勤時に利用されていることがわかった。その後、シクロシティ富山の2010年度、2013年度、2015年度のODデータを比較し、利用範囲やトリップ数が現在までどのように変化してきたかを把握した。富山市の2010年度時点で通勤時に利用されていたと考えられるステーションとの比較から、金融業・保険業従事者、宿泊業・飲食サービス業従事者、サービス業従事者、卸売業・保険業従事者、公務従事者が通勤時に利用している可能性が高いことを示した。さらに、職業別従事者数と2015年度シクロシティ富山の年間トリップ数の相関関係を分析した。結果、金融業・保険業従事者、宿泊業・飲食サービス業従事者、サービス業従事者、卸売業・小売業従事者がシクロシティ富山を利用して通勤している可能性が高いことがわかった。最後に、富山駅周辺のステーションに次いでトリップ数が多い「06 富山市役所」の利用者である富山市役所職員二名に聞き取り調査を行い、分析の結果を検証した。公務従事者は2015年度年間トリップ数との間に相関関係はみられなかったが、「06 富山市役所」や「16 富山県庁前公園」において通勤時にシクロシティ富山を利用している可能性が高く、聞き取り調査によってこの分析結果を検証した。これらの結果から金融業、保険業従事者やサービス業など、シクロシティ富山の年間トリップ数と関連が深い職業従事者に対して利用を推進することで、より多くの利用を見込むことができるのではないかと考えられる。